

「埼玉県文化芸術振興計画」に係る県民コメントの結果について

1 募集期間

令和2年11月2日（月）～令和2年12月1日（火）

2 意見の提出者数及び意見件数

19件（3人）

区 分	人 数	意見件数
郵 送	1	11
電子メール	2	8
合 計	3	19

3 意見の反映状況

区 分	意見件数
A 意見を反映し、計画案を修正したもの	0
B 意見の趣旨が計画案に含まれているもの	1
C 意見の趣旨を実施段階で参考とするもの	15
D 意見を反映できなかったもの	0
E その他	3
合 計	19

埼玉県文化芸術振興計画(案)に対する御意見と県の考え方

《意見の反映》

A: 意見を反映し、案を修正 B: 既に案で対応済み C: 案の修正はしないが、実施段階で参考としていく D: 意見を反映できなかった E: その他

頁	意見の内容	県の考え方	意見の反映
1 7	<p>「彩の国さいたま芸術劇場」について ー2. 本県に於ける文化芸術の状況ーの中で</p> <p>「創造する劇場」としての高い評価がうたわれています。実際、その通りだと思います。</p> <p>他方、蜷川幸雄の残した先駆的な取り組みはシェイクスピア・シリーズの上演や「ゴールド・シアター」や「ネクスト・シアター」などの鑑賞型の活動ばかりではなく、「1万人のゴールド・シアター2016」の様な市民参加型の活動においても先駆的であったと考えます。1600人が出演した大群集劇は、世界的に例を見ない先駆的な取り組みであったに違いありません。最近の公立劇場が芸術監督を擁し、劇場制作の公演を増やしているなかで、つまり「creative」になっている中で、市民参加の「inclusive」な取り組みを進める「さいたま芸術劇場」はユニークな存在です。これは特筆すべきことではないでしょうか？</p>	<p>今後とも高い評価が得られるようしっかりと劇場運営をしてまいります。</p>	E
2 9	<p>With/After Coronaの文化芸術活動について</p> <p>密を避けた上演やオンライン配信など、様々な工夫により新たな表現形式が取り入れられつつあり、「ニューノーマルな文化芸術活動」が生まれることでしょう。もう一つ、このコロナ禍で明らかになったことは「県民の82%がコロナ禍でも文化芸術の必要性を感じている」ということです。文化芸術を通じて表現することは人の根源的な欲求です。人を励まし、又慰めます。集って感動を分かち合うことの価値の大きさがよく分かりました。失って初めてわかる有難さです。とかく文系は役に立たないとか、娯楽はこの次、などと言われますが、文化芸術の価値について更に言及があってもよろしいのではと感じました。</p>	<p>この計画の基本的視点として「新型コロナウイルス感染症に対応した文化芸術活動の活性化」を掲げており、各取組を進めていく上で重要なポイントとなります。</p>	B
3 10	<p>文化芸術創造への参加促進 ー多様性「誰一人取り残さないこと」ー</p> <p>ここでも参加型の文化芸術活動の創造がうたわれています。SDGsの推進に取り組むなかで「県民誰もが文化芸術に参加できる社会を目指す」とあります。どうぞ「鑑賞」にかたよらず、「参加」できる活動の場の提供をお願い致します。更にSDGsのNo16の目標「平和と包摂的な社会」を目指すために、文化芸術のはたす役割は大きいと思います。分断と対立、格差と差別が深刻化する世界にあって、人と人が共感し、思いやり、親和力を高めることができる貴重な分野です。文化芸術はプロパガンダ化、政治利用などには注意を要しますが、本来は損得抜きで人と人を繋ぐ力となります。</p>	<p>文化芸術について「鑑賞」にかたよらず「参加」の場も提供できるよう努めるとともに、文化芸術に対する貴重な御意見として承ります。</p>	E
4 11	<p>劇場に関して</p> <p>いつもドアは、オープンで県民に開かれたもの、いつも県民が関わることのできるワークショップが、何かしら開かれていて、風通しの良い、むしろ憩える学びの場であって欲しい。(英国の、そこには必ず図書館が併設されているというような)communityを開いていく、県の魅力を消滅させない取り組みの仕方を考える。県民の中に出ていく、飛び出していくような文化芸術活動をするそんな劇場であって欲しい。例えば、劇場が(県が)まちピアノを設置する、セッションで、まち演劇ができ、そこには、まちダンスもまち歌も、郷土芸能もある。大人も子どもも外国人も、参加でき、障害のあるなしにかかわらず、皆楽しく嬉しい。</p>	<p>「彩の国さいたま芸術劇場」を運営する上で、いただいた御意見を参考にさせていただきます。</p>	C
5 12	<p>「(3)芸術体験(アウトリーチ事業)の充実」について</p> <p>芸術家・専門家の派遣がうたわれています。大変ありがたいことで、我々の様な”高齢者アマチュア劇団”は舞台表現の完成度を高めるために専門的な指導やアドバイスが欠かせません。今までもプロを講師に招いて勉強会やワークショップなどを実施しており、コロナ禍が終息すれば今後も一般の方も参加できるオープンワークショップを開催してゆく方針です。プロの目で見てもらうことは、とかく自己満足に陥りがちな活動には必須です。どうぞしっかりと充実して頂くようお願いいたします。</p>	<p>計画の「芸術体験(アウトリーチ事業)」を実施していく上で、いただいた御意見を参考に、しっかりと実施してまいります。</p>	C

頁	意見の内容	県の考え方	意見の反映
6 12,13,24	アウトリーチ事業や社会福祉施設、病院などのボランティアアートには、演劇を加える。(リーディング・ショートストーリー・エチュードなどなら可能)	現在も地域の公民館などが芸術家等の派遣を受け、演劇を含めたアウトリーチ活動を実施しています。アウトリーチ事業やボランティアアーティスト事業を進める上で、いただいた御意見を参考にさせていただきます。	C
7 13	<p>「(1)多様な県民の文化芸術活動の充実・支援」について</p> <p>「さいたまゴールド・シアター」が、高齢者による舞台芸術の取組の支援の例に挙げられています。しかしながら、今はさいたま芸術劇場の所属劇団といった印象があり、高い表現力は誰もが認めるところですが、「高齢者が身近に文化芸術活動に取り組める場の充実」に寄与していると感じられません。高齢者が「ゴールド・シアター」や「ネクスト・シアター」のメンバーと共演できるようなオープンな場を設けることは出来ないでしょうか？参加者は実に大きな刺激を受けるでしょうし、大変貴重な勉強の機会となります。ノゾエ征爾氏とさいたま芸術劇場による一連のGAC(ゴールド・アーツ・クラブ)公演はまさにそのような機会でした。GACが終了となり喪失感ばかりではありません。どうぞ、高齢者がプロと共演できるような機会を設けていただくことを切望します。</p>	計画の「多様な県民の文化芸術活動の充実・支援」を進める上で、いただいた御意見を参考にさせていただきます。	C
8 13	<p>築かれた「高齢者演劇の聖地」の名を持続させる取り組みを行う(メジャーはやはり、ゴールドシアターであると思われませんが、それだけが高齢者演劇集団ではなく、これからは、次へと繋げていく必要性もありましょう)コロナ状況を見据えた上での、アプローチを考え、例えば</p> <p>①65歳以上のオーディションによる一般公募で(群衆劇のような大規模なものではなく、少ない人数で良い)4シーズンもしくは2シーズンで劇を発表。蜷川ゴールド賞を設定。</p> <p>②県内の高齢者演劇集団の「演劇甲子園」を開催。知事賞を設定。</p> <p>③郷土芸能を題材に取り込んだ脚本の公募、それを実際に公演発表する。</p> <p>④世界ゴールド祭は、蜷川レガシーを一番体現できるものであるのので、「蜷川記念日」として、招聘する国はひとつにするとか、一演劇団体を演劇交流として、他関係国に派遣するとか、その年どしで、内容は変わってよい。できれば開催中は、多数の県民が参加できる多様な、(リトミック・コンテンポラリーダンス・歌・発声・戯曲を読む・書く・リーディング・エチュードによる演劇体験シェイクスピア劇の舞台衣装をみる、学ぶ等)ワークショップを企画し、文化芸術の体験を深めるのようにして、全体では、規模は小さくして継続事業とする。</p>	計画の「多様な県民の文化芸術活動の充実・支援」を進める上で、いただいた御意見を参考にさせていただきます。	C
9 13,17	<p>障害者アート</p> <p>公の場には、必ず恒常展示が望ましい。</p> <p>作品は、舞台演出にも効果的(織物を上から垂らしたり、描かれた絵を垂らし たりして使う)また、パンフレットや、チラシなどにも絵を使用する。</p> <p>障害者演劇(ミュージカル)の継続的上演(千葉県市川市の取組など参照)</p> <p>何年か先には、障害者ミュージアムを作る。</p>	県では現在、障害者アートを公共施設やホテルなどで常設展示をしているほか、企業・団体での展示・活用を推進し、障害者アートの魅力を発信しています。障害者舞台活動においても、障害者アートを活用した内容としたり、継続的な公演を行っています。引き続き、こうした取組を実施していくとともに、いただいた御意見を参考にさせていただきます。	C
10 14	埼玉版アーツカウンシルは是非設置すべき。もう少しだけイメージでは、アソシエイトアーティストの設置など。更にくだいて、プロフェッショナルな、レセプションの育成もサービスとしてあっても良い。	計画の「埼玉版アーツカウンシルの設置検討」を進める上で、いただいた御意見を参考にさせていただきます。	C
11 16	<p>コロナ対策の一つとして</p> <p>野外で行う演劇祭・音楽祭(郷土芸能も含めて)・映画祭の開催。生活文化集合のマルシェアートフェスティバル(伝統食品・工芸品・野菜+文化芸能等)里山の自然や、文化施設(文化財・記念会館・庭園・お寺など)を会場とした演劇や、スペシャルコンサートの開催など、多文化共生アトラクションを、3密にならぬ形態で催す。</p>	東京2020大会文化プログラムとして、これまでで県立大宮公園で「埼玉WABISABI大祭典」を開催し、伝統芸能、盆栽、生け花、茶道、食文化など本県の「和」文化を発信してきました。事業を実施する上で、いただいた御意見を参考にさせていただきます。	C

頁	意見の内容	県の考え方	意見の反映
12 16,17	<p>「2. 東京2020大会文化プログラムの実施・レガシーの継承」について</p> <p>様々な文化プログラムの実施項目が挙げられています。具体例の後に「このほか、演劇、音楽、現代アートなど様々なジャンルの多様な人たちが参加するプログラムを県内各地で展開します」とあります。これには「世界ゴールド祭」は含まれていないのでしょうか？ご存じのように、GAC(ゴールド・アーツ・クラブ)は東京2020大会の本公演を目指して稽古を積み上げてきました。世界の高齢者劇団やダンス・カンパニーと並んで競演できることは、言ってみれば「一生に一度の晴れ舞台」です。もし、この文化プログラムの中で実施できないとしても「レガシー」として残すことは出来ないでしょうか？</p> <p>17頁に「蜷川レガシー」の継承・発展という言葉が出てきます。劇場が芸術性の高い舞台作品を発信する「場」であることにとどまらず、高齢者が「人生のリアルというものを背負って」表現する「場」であることも考えていたはずで、「レガシーの継承」は粘り強く、地道に、継続していくことが重要です。「1万人のゴールド・シアター」から生まれた我々の劇団は53名の会員で、レガシーの一つと自負して活動を続けています。</p>	<p>計画の「東京2020大会文化プログラムの実施・レガシーの継承」を進めていく上で、いただいた御意見を参考にさせていただきます。</p>	C
13 17	<p>「埼玉県民によるシェイクスピア」</p> <p>シェイクスピア作品を埼玉県民対象にフルキャストオーディションを行い舞台化する。 *ゴールドシアター、ネクストシアターは基本的に対象外とする。</p>	<p>計画の「多彩な文化芸術の創造・発信」を進めていく上で、いただいた御意見を参考にさせていただきます。</p>	C
14 17	<p>「蜷川レガシー」に関連して一つ提案させていただきます。</p> <p>埼玉県の文化芸術ブランド・コンセプトの一つとして「蜷川 x シェイクスピア x 埼玉」を発信する。例えば蜷川幸雄の記念日などに「蜷川・シェイクスピア祭」を開催。県内各地のアマチュア・グループ(劇団、演劇部など)がシェイクスピア劇を上演、これを県が支援する。あるいは県民対象に出演者を一般公募しシェイクスピア劇を上演。いずれも準備に時間を要することであり、二年あるいは三年に一度の開催でもよいと思います。</p>	<p>計画の「多彩な文化芸術の創造・発信」を進めていく上で、いただいた御意見を参考にさせていただきます。</p>	C
15 19	<p>文化芸術活動をしているアーティストや団体間での連携を図る。アーティストや、文化芸術団体のしっかりとした横のつながり、ネットワークがあれば、互いに学び合い、足りない部分を補いながら、幅広く豊かなものを作っていく事ができる。</p> <p>不要となった公官民の施設を、(アート:演劇・音楽・美術などに携わる者等の)稽古場・制作場所・そして相互団体の連絡ステーションとして開放してほしい。</p>	<p>計画の「文化芸術の専門人材・民間団体等との連携強化」を進める上で、いただいた御意見を参考にさせていただきます。</p>	C
16 20	<p>ボランティアの育成に力を入れる</p> <p>上記のようなことを実施したりするにしても、それを下支えるスタッフが必要となる。文化芸術事業の企画運営をサポートするために、高齢者は喜んで手を挙げる。</p> <p>子育て世代・働き盛り世代が、観劇や音楽鑑賞を楽しみたい時、小さな子は、保育サービス、大きな子は、同じ日の同じ場所で、神楽や和太鼓、郷土芸能や文化ワークショップに参加するという仕組み作りをする。こうしたことにも高齢者は、ボランティアで、サポートに加わることができる。これも又一つの参加するというスタイルなのである。</p>	<p>計画の「文化芸術を支える人材の育成・強化」を進めていく上で、いただいた御意見を参考にさせていただきます。</p>	C
17 21	<p>県内大学との連携</p> <p>すでに、多数の取り組みは見られるが、大学と連携し芸術活動によって高齢者のクオリティ・オブ・ライフ(生活の質)の変化を、長期にわたってデータを出し、埼玉県の数値として、見える化する。</p> <p>文化芸術を担う人材の育成として、舞台スタッフ養成講座を設け、音響照明の技術を学ぶ。実践として、高齢者劇団や、音楽・ダンスなどのステージ発表に参加する。また、バーチャル・リアリティなどの先端技術を使った、新しいタイプの演劇を、生み出す(世界ゴールド祭の時、オーストラリアの高齢者ダンスグループの発表でロボットが使われ、素晴らしい芝居になっていたのと、若いロボット製作者と高齢者のコラボが印象的であった)チャンスも生まれる。</p>	<p>計画の「県内大学との連携」を進めていく上で、いただいた御意見を参考にさせていただきます。</p>	C

頁	意見の内容	県の考え方	意見の反映
18	<p>カフェレストランの充実</p> <p>彩の国シネマの映画を千葉から見にきたという人から、カフェはありますか？レストランは？と聞かれた。</p> <p>彩の国さいたま芸術劇場には、レストランはあるが、カフェは、名ばかりで常時営業はされていない。世界ゴールド祭のおり、英国やオーストラリアから来た役者さんたちが、レセプションの時、私たちの食べるものがない(食べたいものがない)と言われた。</p> <p>こんな時くらい、日本の(埼玉の)食材料を生かしたパーティー料理が出せないのか、あるいは、ベジタリアンに配慮したものが出せないのか。劇場の中にカフェがあるだけで、人は安心してそこを利用できる。人の動き・流れができる。例えば、「秩父の100年の森」で採れた、「和メープル」を使ったパニーニとコーヒー杯があるだけで、どんなに心と体が潤うことだろう！</p> <p>情報プラザの隣のイベント用に押し込まれたレストランの道具やテーブルなどを見るとがっかりする。小さなことだが、これも十分文化芸術振興を考えていくためのひとつではないだろうか。</p>	<p>彩の国さいたま芸術劇場を運営する上で、いただいた御意見を参考にさせていただきます。</p>	C
19	<p>2021年度は、予定されている東京2020大会があり、それに伴う文化オリンピアードのbeyond2020プログラムなどを通し、共生社会・国際化につながるレガシーが作られていくことでしょう。これからの活動のポイントである「文化資源を生かす」「担い手の育成」「communityの活性化を図る」は、県のみならず、今ある日本の社会問題も多く含まれていると思われまます。これから、どのように振興されていくのか、期待できる五年間であると、楽しみにしております。</p>	<p>御期待に応えられるようしっかりと計画の推進に取り組んでまいります。</p>	E